

令和4年度学校教育計画

呉市立吉浦中学校長 河本 英希

継続

吉浦中学校区の教育目標（小中一貫教育）「かしこく やさしく たくましく」（自利 利他 貢献）

継続

経営理念（ミッション・ビジョン）

ミッション（学校の使命）：夢の実現に向けた志を抱き、自己を成長させていくとともに、自分を大切にし他を大切に、地域や社会に貢献できる生徒を育成する。

ビジョン（将来の学校像）：伝統を継承し、人々とふれあう中で地域と一体感をもち、郷土愛を育むことができる学校

継続

目指す学校像

- ・生徒、保護者、教職員が誇りに思い、地域から愛される学校
- ・潤いと活気に満ちた学校

目指す生徒像

- ・自分を大切にする生徒
- ・他を大切にする生徒
- ・地域・社会に貢献できる生徒

目指す教職員像

- ・常に学び続ける姿勢をもつ教師。
- ・組織の一員として責任と自覚を持ち協働できる教師。
- ・誰からも信頼される教師。

吉浦中学校に（を）

- ・通って良かったと思う生徒
- ・誇りに思う地域住民

- ・通わせて良かったと思う保護者
- ・勤務して良かったと思える教職員

継続（一部新規）

三つの重点施策

①「知」 授業改善の推進…「優れた授業は最大の生徒指導である。」

学びの変革の 更なる推進	教科等の本質に迫る「考える授業」づくりの実践（発問の工夫を通して） 「考える授業」づくりのためのICTの効果的活用とスピーチの実践
授業規律の徹底	「2分前着席の実施」「4秒礼を実施」「授業の開始に書く活動を実施」「返事の「はいっ」を言わせる指導」「聴く姿勢の指導」→ H30の継続
教室環境の整備	「整然とした机・椅子の位置」「カバンを置く位置」「ロッカーの整理整頓」「散らかっているゴミのない教室」「整然とした掲示物」→ H30の継続

②「徳」 道徳教育の充実と積極的生徒指導の充実…道徳的実践力を高めるとともに生徒の良いところを褒め、自己存在感を高める。

肯定的評価	生徒をしっかりと観察し、生徒の貢献や成長した点を見つけて言葉で伝えましょう。貢献に「感謝」を伝え、小さな「感謝」を積み重ねて生徒の自己存在感を高めましょう。
挨拶・返事 時間 掃除 身だしなみ	「社会に出たときのエチケット・マナー」を指導しましょう。まず、われわれから率先垂範しましょう。
郷土愛の育成	各教科や総合的な学習の時間、道徳の時間等で郷土について理解を深めさせ、防災や協働の活動を通して地域に貢献できる生徒を育てていきましょう。

③「体」 基本的な生活習慣確立の指導…「自分に負けない。」→「自己指導能力を育てる。」

時間の三点固定	「起床時間」「就寝時間」「家庭学習を始める時間」を固定させ、規則正しい生活を送るように指導しましょう。食育も推進しましょう。
運動能力・体力の向上	ルールやマナーの指導と一生懸命活動する楽しさを教えてください。部活動では、個人・集団の技術指導と体力づくりに取り組みましょう。

継続

基礎に据えたいものは『生徒指導の三機能』と『率先垂範』と「報・連・相・(確)」

自己決定の場	自分で決めて実行する場を設定しましょう。
自己存在感	価値のある存在ということを実感させましょう。
共感的人間関係	相互に尊重し合い、理解しあい、自分を語れるようにしましょう。
率先垂範	一人の大人として、生徒に背中を見せましょう（お手本になりましょう）。
報・連・相・(確)	組織を機能させるには「報告・連絡・相談・(確認)」が欠かせません。

継続

学力調査への対応…「結果を残し、教師も生徒も自信を持つ。」

A問題への対応	朝学習・特設放課後学習を学校組織で取り組みましょう。
30%未満生徒への対応	朝読書・特設放課後学習の時間を利用して基本的な問題をやらせましょう。
活用問題への対応	定期試験では必ず活用問題を出題しましょう。その際は起案してください。

より信頼される学校…不祥事は絶対に起こさない！→生起すると正常な教育活動ができない！

職員一体化した取組	職員が一体となって生徒に寄り添う指導をしていきましょう。
定期的な研修	当たり前のことを再確認していく場を設けましょう。
情報発信	学校の様子を各通信やホームページで発信しましょう。

生徒へ指導し続けてほしいこと（われわれも意識し続けましょう！）

一生懸命	“一生懸命”であれば、必ず成長できる。“一生懸命”取り組んだ者でないと味わえないことがある。中学校3年間を充実させる。
感謝	自分を認め、他に感謝し、貢献することで、さらに成長できる。
健康	活動するための土台。栄養・睡眠・適度な運動・規則正しい生活（時間の三点固定）。悩みを一人で抱え込まず誰かに相談。気を抜かず感染症予防を継続し、徹底しましょう。

継続

教職員の皆様へ…健康に留意し、明るく、働きやすい職場にする

働き方改革	ゴールを決めて仕事をし、効率化を図ることでワークライフバランスを保ちましょう。 目標は時間外勤務が上限が年 360 時間です。月 45 時間を超えないようにしましょう。 生徒指導の未然防止が、最大の業務改善。働きやすい職場を目指しましょう。
-------	--